

# Article

## アーティクル

## 表紙解説

### —人工知能技術による ナチュラルユーザインタフェース—

#### Cover Comment: Natural User Interface by Artificial Intelligence

北岡 伸也  
Shinya Kitaoka

(株)ドワンゴ  
DWANGO, Co., Ltd.  
shinya\_kitaoka@dwango.co.jp, <https://dmv.nico>

**Keywords:** smart device, natural user interface, human-machine communication.

#### 1. はじめに

今年の「人工知能」もその号の特集にちなんでイラストで飾った多彩な表紙を楽しんでいただきたいと思います。本年最初となる本号では、yuzuco先生に描き下ろしていただきました。

#### 2. 解説

日常生活とそれを支える人工知能技術がテーマです。ほかの技術についても同じことがいえると思いますが、人工知能技術の一般への広がりや、何か大きなきっかけがあって一瞬で社会に敷衍されるというよりは、気がつくと生活の中になくはならないものとして、いつのまにか受け入れられているのではないのでしょうか。

それがスマートフォンのような小型のモバイル端末を通じた形で広がっているというのは、すでに実現されている未来の一つの形だと思えます。



図1 2020年1月表紙 © yuzuco

表紙作品についての yuzuco 先生のコメントです。

今回の表紙は、『人間と相互理解できる次世代人工知能技術』のテーマで描かせていただきました。人工知能は、気付かずに日常生活に多く関与しているので、スマートフォンやネットワークにある人工知能が日常生活空間に溶け込んでいる様子を表現しました。これから人工知能は人を理解するためにさらに発達し、生活をサポートできるようになると期待しています。

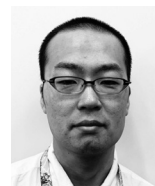
人工知能が人を理解して支えてくれる。それは単に人にとって便利な道具が増えるということを超えて、人工知能技術という視点を通して人が人をより理解するということにもつながっていくことのように思えます。

人工知能が人を理解して人が人を理解する。そして人が人工知能を理解する。もちろん人工知能が人工知能を理解するということもあります。

必ずしも理解できない他者を、それでも理解しようとする意思が重要になる。それが“今”という時代なのではないでしょうか。

2019年12月4日 受理

#### 著者紹介



北岡 伸也 (正会員)

2010年に大阪大学大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻を修了。博士(情報科学)。現在は株式会社ドワンゴ niconico 事業本部 ML エンジニアリング部 (Dwango Media Village) マルチメディアエンジニアリングセクションでマネージャーを務める。人工知能学会編集委員として2020年の表紙を担当。